

酒の始まり

福地蔡良 (1894・M27) 字渡慶次 (01 : 32)

酒^{さけ}え 造^{ちゆく}い 始^{はじ}まてーしえーよー。
座喜味^{ざきみ}城^{ぐしく} ぬ北^{にし}ぬ側^{はら}んかい、あぬークワツキラんち
田^{たつ}圃^{ぶく} ぬ在^あるばーてー。クワツキラでい言^いんよー、
彼^{あま}奴^かねー。クダユムドウイ、米^{くめ}え 啜^くてい 行^{うん}ぢえー、
食^かみ 残^{ぬく}ちえー、其^{うんま}奴^しんかい、岩^しぬ 鼻^{はな}ぬ 上^いぬ 窪^{くぼ}んぐわ
ーんかい、残^{ぬく}いや 集^{あち}まてー。だー、自^{どろ}分^かぬ 食^{ぬく}み 残^{ぬく}
るやぐとら、うりしそーし。

うりから、ある田^た打^{らう}っちやーが見^んち、珍^{ひるま}しーむん。
うぬ 岩^しぬ 鼻^{はな}からー、うぬ 水^みぐわーや 飲^ぬれー、パタパ
ターし 嬉^{いそ}さしえー水^みぐわーんじ、なーうりしえーし
っしーし。なー 喜^{ゆるく}り 歩^{あつ}ちゆし 見^んち、「珍^{ひるま}しーむん、
くぬクダーや 珍^{ひるま}しーむんやっさー」んち、岩^しぬ 鼻^{はな}ん
かい上^{ぬぶ}てい 行^{うん}ぢ 見^んちやぐとら。

んちや、うぬ 残^{ぬく}ちえーる 米^{くみ}や、雨^{あみ}ぐわー 降^ふたぐと
ら 水^みえ 溜^たまやーに、麴^{こうじた}立^{こうじた}つち。うぬ 麴^{こうじた}立^{こうじた}つちよー
る 中^なんかい、またん 雨^{あみ}ぐわー 降^ふたぐとら 水^みえ 溜^たま
やーに。あんしから、くぬお 酒^{さけ}え 造^{ちゆく}い 出^{うん}じゃちえー
んでい、醪^{むるんちゆく}造^{じょうりゆう}ていから 蒸^{じょうりゆう}留^{じょうりゆう}しみやーに。うぬク
ダーが 飲^ぬり 嬉^{いそ}さし、パタパターし 酔^{をい}てい、うり
から 酒^{さけ}え 造^{ちゆく}い 出^{うん}じゃちやんでい さらぬ 話^{はなし} やるば
ー。

【共通語】

酒を造り始めた話はね。

座喜味城の北側に、クワツキラという田んぼがあるんだがね。そこにある岩の方で、雀が米を啜え行き来していた。クダユムドウイ（雀）は食べ残しの米を集めて、岩の窪みの先端に溜めていた。

ある時、田んぼ仕事をしている人がそれを見て、珍しく思っていた。岩の先端で水を飲んで嬉しそうに羽をパタパタしているのを見て、「珍しいなあ、この雀は何をしているんだろう」と、岩の先に上って見たんだね。

そこには、雨水に浸かった米が発酵して麴^{こうじ}ができていた。その麴^{もろみ}が醪^{もろみ}となって、お酒を造り出したようだ。それを飲んだ雀が酔いながら嬉しそうに、パタパタと羽ばたかせていた。その後から、酒造りが始まったという話なんだよ。